

めぐみ

2023年
2月号

学校法人 聖公会北関東学園
初雁幼稚園
〒350-0057 川越市大手町 8-5
Tel.222-5385 Fax 228-5010
E-mail hatsukari-kg@nifty.com

ばなし

チャプレン 鈴木 伸明



1月下旬、関西に住んでいる従姉妹がビデオを送ってくれました。今から60年以上前、まだ珍しかった8ミリで撮影されたもので、1歳半だった私が伯父伯母に囲まれ、カルピスを飲ませてもらっている短時間の動画でした。このビデオがあることは母から聞いていましたけれども、実際に見たのは今回が初めてで、久しぶりに自分の幼少期を思い出すきっかけとなりました。

タイトルを見て、いったい何のことかと思われた方が多いのではないかと思います。実はこれ、通っていた幼稚園の担任の先生が私につけたあだ名です。「鈴木君のことを、『ばなし』と呼んでいるんですよ。おもちゃで遊び終わっても片づけしないで出しっぱなし、お絵かきをしてもやりっぱなしだからそう呼ぶんです。」保護者面談の際に、担任の先生が母にこう言った

そうです。当然のことながら私は家で母からひどくしかられることになりました。そのせいでしょうか。4歳の出来事にもかかわらず、64歳になった現在も当時のことが頭から離れることはありません。また私が成長した後も、両親は「ばなし」の話をまるで楽しい思い出であるかのように笑顔で聞かせました。私が怒ると、「こういうのをユーモアって言うの…、あんたはユーモアがわからない」と逆にしかられることになり、こうしたことが何度か繰り返されたのを覚えています。

当時の教育は、人の前で恥をかかせたり、嫌に思うことをみなの前で大きな声で言ったりするのが当たり前のように行われていました。それが嫌だったら、悔しかったら、もう言われないうように態度を自分で改めなさいというわけです。

現在ならこんなことは決してありませんけれども、それは時代が移り変わって人々の常識が変わったというよりも、こうした教育で傷つき、影響を受けた子どもたちが少なくなかったからではないでしょうか。

変化には大きなエネルギーが必要なせいも、人間はなかなかそれに取り組みにくいことがあります。災害対策にしても、その危険が普段から指摘されていたにもかかわらず、大きな災害が発生しないとその対策がとられず、もっと早く対策が取られていれば、命を失わずにすんだ人が大勢いたのと言われるのが常です。

しかし教育にそんなことがあってはなりません。普段の日常から子どもたちの成長に何が一番必要か、今意識を変えていかねばならないのはどういうことなのかを的確につかみ、行動していくことが求められています。一人一人の個性を尊重することが重要視される中、私たちは日々、子どもたちと向き合う中で不断の変化が求められているのではないのでしょうか。

学年末を控え、新しいステップを間近に控えている園児たちに、神様の祝福と導きが豊かにありますよう、お祈りいたします。

今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

★予定★

今月のテーマ
「いっしょにね」

目 標

- 自分や友だちの得意なことや好きなこと、苦手なことがわかり、受け入れる
- 友だちと信頼し合い、楽しさを共感し、喜ぶ
- 寒さの中でも、神様が守られている命を知る

学年別のねがい

- (1歳) 思いを出し、伝わる喜びを感じる
- (2・満3歳) 楽しさを共感する
- (年少組) 友だちと心を通わせ、のびのびと過ごす
- (年中組) 自分たちで生活を進めていこうとする
- (年長組) お互いの力を信じ、自信を持って生活する

ひとこと

寒さが増して水道から氷柱ができていたり、畑の土には霜柱が立っていたり、今の季節だからこそ感じられる自然の不思議があふれています。神さまからの素敵な恵みに、子どもたちは「冷たいね」「色水を作って置いておいたら固まるかな」と喜び、楽しみを広げています。寒さを感じながらも園庭や散歩先で体を思いきり動かし、走ったり、追いかけてっこをしたり、大きくなればサッカーやドッチボールも楽しんでます。自然の中で、心も体も丈夫に大きく育ってほしいと思います。



日	曜	行事などの予定
1	水	職員研修
2	木	面談予備日 アルミ缶回収
3	金	全体礼拝 ↓
4	土	就労家庭保育実施日 園内研修 つくし組参観・懇談会
5	日	
6	月	
7	火	幼保小連絡懇談会
8	水	入園準備会 (1・2号)
9	木	年長組読み聞かせ「おはなしの会」 連絡係打合せ
10	金	全体礼拝 撮影放送予定日
11	土	建国記念の日
12	日	
13	月	年少組参観・懇談・交流会
14	火	年長組参観・懇談・交流会
15	水	聖書研究
16	木	年中組参観・懇談・交流会 初雁中職 場体験
17	金	全体礼拝
18	土	就労家庭保育実施日
19	日	川越キリスト教会信徒総会
20	月	
21	火	環境検査
22	水	2月生まれ誕生会
23	木	天皇誕生日
24	金	全体礼拝 園内研修
25	土	就労家庭保育実施日
26	日	
27	月	
28	火	

今月の聖歌

「ひとりのちいさなて」

今月の歌

「たのしいね」

チャプレンのページ



次のステップを控えて

イエスは、ナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある
湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた（マタイによる福音書第4章13節）

今冬は厳寒と言われていました。日本海側の地方では大雪となり、厳しい気候が続いていますが、関東地方は比較的暖かい日が多くなっていました。ところがここへ来て厳寒の日々となり、待ち遠しく思わなくても春がやってくるように思っていた私たちは、改めて冬の厳しさを実感することになりました。

新型コロナウイルス感染症が私たちを恐怖と不安に陥れるようになって3年が経過しました。まだまだ安心できる状況でないにもかかわらず、もう感染するのは仕方ない、これからは経済や教育、コロナ前の日々を取り戻すのだと言わんばかりの風潮になってきました。日常を取り戻したい気持ちは同じでも、命の危険にさらされている方々が少なくないことを思うと、自分たちの日常が戻ればよいとは思えず、なすべきことを行う力と、人と社会を思いやる心を養う教育が、一層重要になったのではと思わされます。

冒頭の聖書箇所は、イエス様が約30年住まわれたナザレを出て、ガリラヤ湖畔の町カファルナウムを活動拠点と定めて、宣教活動を開始した場面です。ナザレからカファルナウムまで約42km、当時は一日以上かかる距離で、通信手段も何もない当時のことですので、イエス様は二度と戻らない覚悟で住み慣れた家を出て、神の子としての活動を開始されたこととなります。この後イエス様は実際、ナザレには宣教活動のため一度行ったことはあるだけで、家に帰られることはありませんでした。

イエス様の宣教活動は、人々に教えを宣べ伝え、奇跡を行って神の国の力を示し、たとえ話で神の国について語られる形で行われました。今日の旧約聖書に書かれている律法に基づいた宣教活動でしたので、律法に精通した人たちが弟子に選ばれたのかと言えばそうではありません。最初に弟子になった4人、ペトロ、アンデレの兄弟とゼベダイの子ヤコブとヨハネの兄弟、彼らはガリラヤ湖の漁師でした。ガリラヤ湖には小さな魚がたくさんいたのです。この魚をペトロが獲っていたということで、今日では「ペトロの魚」と呼んでいます。学校もない当時のこと、漁師はおそらく、字の読み書きは出来なかったのではと考えられています。しかし彼らはイエス様に真っ先に従う心を持っていました。イエス様が求められたのは律法に対する知識ではなく、困難に立ち向かうしっかりした心を持つこと、やがて初代教会の指導者として命をかけて歩み続けていく人たちだったのです。

私たちは今、子どもたちに何を願い、望みを託しているか、改めて思い起こしてみたいものです。

（チャプレン 鈴木 伸明）

クラスの窓



つくし組

冬季限定



冬場にしては暖かかったある日、お散歩へ行こうと外へ出ると「ん？今日あったかいねー」と一言。大人びていてかわいらしかったです。周りの変化にすぐ気がつくつくし組。お日様が雲で隠れると「暗くなっちゃったね」「(お日)さまないねえ」などと空を見上げています。日陰からひなたへ出ると「(お日様)あったねえ」と嬉しそうです。周りの変化といえば、ある日お昼寝から起きてロールカーテンを上げるとそこには結露で曇った窓ガラスがあり、「なんだこれは」と興味津々の様子。せっかくだからと思いき窓ガラスにアンパンマンやしまじろうを描くと大喜び！しばらくすると描いた絵は消えてしまったのですが、次の

日また結露で曇ると…絵が浮き上がってきて、クスクス笑いながら「しまじろうあるねえ」と昨日の事を思い出しながらお話ししていました。今ではすっかり結露を手で消したり？触ったりするのを楽しみにしている様子で友だちと並んで夢中になっています。その後ろ姿がなんともかわいらしいこと。霜柱や氷とともに期間限定の現象を満喫中です。

もも組

お手伝いマン

外から帰ってきて手洗いうがい、汚れていたら着替えをするもも組。それが終わると「おてっだいするー！」と給食の準備を手伝っています。テーブルを拭いたり、手拭きタオルを濡らしたり、おかわりが入ったタッパーやコップを給食室から運んだり。みんなとても積極的です。逆に着替えを忘れていて手伝いに出遅れると、手伝いたくて「待って、ぼくもやる」と急いで着替えるほどお手伝いは大人気！また、お片付けの時は自分の出していない玩具でも「〇〇もやるよー」とお助けしてくれる子どもたち。みんなで片付けるとあっという間に終わってしまいます。外のスケーターや三輪車もお兄さんたちの姿を見て「じぶんでやる」と倉庫まで持ってきてくれるように。最後まで運べると「できたよ！」と達成感を味わっています。お手伝いマンやお助けマン、自分でやるマンがたくさんいてとても頼もしいです。みんなが喜んでくれて嬉しい、自分もできて嬉しい等の経験をそれぞれのペースで楽しく積み重ねていってほしいなと思います。

ちゅうりっぷ組

一人一人の今ある力で

冬季中も来ていた友だち、久しぶりの登園や新しい友だちの入園などみんなが集まりにぎやかにスタートした3学期です。

クラスでは、「バスに乗って」を手遊びつきで歌うことや「ばななくん体操」、ピアノに合わせて動物に変身するのを楽しんでいます。大好きな曲がかかると自然とお互いに顔を見合わせて笑い、ノリノリに歌って踊っています。

そんなみんなが、1月の誕生会の出し物担当でした。担任の先生方が「いつも楽しんでいることをそのまま出し物にできるといいな」と考え、ホールに出かけてみると…。子どもたちのやる気は、ステージ上には収まり切りません。次々とステージから降り、自由に歌って踊って、走っています。実は、誕生会2日前までステージからパレードのように出かけていく子がたくさんで、「どうなるかな」とドキドキしていました。その姿や思いを受け止めつつ、誕生日の子や見ている人が喜ぶにはどうしたらいいかをみんなで考え合い、子どもたちの楽しい思いと力を信じ、当日を迎えました。当日は、2日前がうそのようにみんながステージでドキドキしつつも、それぞれの今の力でやり遂げました。

出し物となると当日にできるかできないかに目や思いが行きがちですが、それよりも子どもたち一人一人が今ある自分の力といろいろな思いを出し、経験する過程こそが大切です。同時に、それを信じて待つ身近な大人の存在の大事さも、子どもたちと先生を見ていて改めて感じた誕生会までの日々でした。

たんぽぽ組

身も心もたくましく！



3学期が始まり、たんぽぽ組ではさらにさまざまな遊びに挑戦しています。先日、中あて（コートが1つのドッジボールのようなゲームです）に初めて挑戦しました。以前は「負けると嫌だからやりたくないな…」そんな声も聞こえましたが、「やってみよう」と思えたり、「どうしたらもっと楽しくなるかな」と、その都度考えながらルールを作ってみたり、遊び方が今までとは異なってきました。心も育ってきて、負けると悔しい思いはあるけれど、「もう一回！」と粘り強く挑戦したり、「次こそは！」と明日へのパワーに

変えたりして、前向きに頑張っています。

また、子どもたちで相談する場面も多くなってきました。写真にもあるように、砂場で穴を掘っていた子どもたちが、落とし穴を作ろうということに。「穴が空いてるのがばれないようにしましょう」「水を入れたらびっくりするかな」「それなら裸足の子しか誘えないね」など、ひとつのことを進めるのにも、たくさんの会話が聞こえてきます。これからもたくさん対話をして、遊びの中で学びを深めていけたらと思います。

すみれ組

ドッジボールも自分たちで準備

2学期の途中からすみれ組では、ドッジボールが盛り上がっています。朝、幼稚園に来ると必ず聞こえてくる「ドッジボールしよう」という声で、みんなが外へ向かっていきます。始めは「先生、ドッジボールの（コート）線書いて！」と担任を呼んでいたのですが、ある日自分たちでドッジボールを始めていました。外へ出てみると、ドッジボールのコートが少し不格好に引いてありました。子どもたちで協力してラインを引いたようでした。2つのコートの大きさは平等とは言えませんが、それでも自分たちで準備をして始められたことは、とても誇らしげに見えました。その日から「先生」と呼ばれることはありません。ドッジボールをやり始めた頃は、チームを分けるにも時間がかかっていた。それがいつの間にか人数を見て、平等にチームを分けられるようになりました。日々、遊びの中でも感じる子どもたちの成長に嬉しく思います。3学期も子どもたちとの時間を存分に楽しみたいと思います。

どんぐり組

友だちの姿に憧れて挑戦！

クリスマス、お正月と忙しい日々が過ぎ、ゆったりとした日常が帰ってきた1月。冬季保育中には、パンやポップコーン、おにぎりなどの手作りおやつを食べました。人気だったのはパン作り！生地をこねて形を作り、チョコチップをのせて自分だけのオリジナルパンを作りました。いつもは賑やかなおやつタイムも、この日は食べることに夢中でなんだか静かな子どもたち。それほどおいしかったのだと思います。「次はいつ手作りおやつなの？」という声も聞かれるようになりました。また長期休みの時に作れたらと思います。

1月ということで、お正月遊びも楽しみました。年長組が挑戦しているのは駒回し。何日も挑戦し、回せる子が増えてきました。初めて回せた子がいた時には、みんなで集まって拍手喝采。友だちの姿に憧れて挑戦する子が増え、遊びが広がっています。外遊びでは、シャボン玉、サッカー、氷鬼、コンサートごっこなど、いつもの遊びも存分に楽しんでいます。寒さに負けず、のびのびと遊んでいきたいです。



今月の聖書のおはなし



☆ 2月3日「エルサレムに迎えられたイエスさま」 マタイによる福音書 21章 1～17

イエス様は2人の弟子に言われました。「向こうの村に行きなさい。そうすれば、繋がれているロバのそばに、誰も乗ったことのない子どものロバがいるのを見つけるだろう。それをほどこいて、私のところに連れてきなさい。」弟子たちが子ロバを連れてくると、イエス様はそれに服をかけてお乗りになりました。それを見た群衆が、自分の服や野原の木の枝を道に敷き始め、「ダビデの子にホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。いと高きところにホサナ」と叫び喜びました。

☆ 2月10日「最後の晩餐とユダの裏切り」 マタイによる福音書 26章 1～5、14～35

祭司長たちや民の長老たちは集まり、イエス様をだまして捕らえ殺そうと相談をしていました。12人の弟子の中の1人であるユダは銀貨30枚を彼らから受け取る約束をして、イエス様を引き渡す機会をうかがっていました。

弟子たちは、イエス様に命じられたとおりに過越の食事を準備しました。イエス様は12人と一緒に食事をしているとき「あなたがたのうちの一人が私を裏切ろうとしている」と言われました。弟子たちは驚き、口々に「私のことでしょうか、そのようなことはありません」と言いましたが、イエス様はユダの裏切りについてご存じでした。そしてペトロには「よく言うておく。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度、私を知らないと言うだろう」と言われました。

☆ 2月17日「イエスさまの裁判とペトロ」 マタイによる福音書 26章 47～75

イエスを裏切ろうとしていたユダは「私が接吻するのがイエスだ。それを捕まえろ」と前もって合図を決めていました。ユダはすぐイエスに近寄り「先生、こんばんは」と言って接吻しました。そしてイエスは捕えられ、弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げてしまいました。

祭司長たちと最高法院の全員は、イエスを死刑にしようとしていました。立って見ていた弟子の1人であるペトロは、イエスの仲間だと言われ「そのような人は知らない」と三度否定しました。するとすぐに鶏の鳴く声が聞こえ、ペトロはイエスの言われたことを思い出し、激しく泣いたのです。

☆ 2月24日「十字架のイエスさま」 マタイによる福音書 27章 11～26、32～61

イエス様は総督ピラトの元に連れてこられました。そこには囚人バラバがいました。ピラトにはイエス様への罪が見つかりません。そこで祭司長たちや長老たちは、イエス様が死刑になるようにと群衆を説得をしました。群衆は「バラバを釈放して欲しい」と言い、ますます激しく「十字架につける」と叫び続けました。ピラトは手の施しようがなく、かえって騒動になりそうなを見て、バラバを釈放し、イエス様を十字架につけるために引き渡したのです。